

令和2年5月1日

## 愛知総合工科高校の生徒の皆さんへ

愛知県立愛知総合工科高等学校  
校長 山口 直人

愛知総合工科高校の生徒の皆さん、元気ですか。一日一日を大切に過ごしていますか。

皆さんに会える日を楽しみにしていましたが、なかなか実現せず今日の日を迎えています。私はこの間、今まであった当たり前のものは、決して当たり前でないことに改めて気づき、価値観が変わるような出来事を今自分は体感していると感じながら過ごしています。そして、やがてこの経験が自分の人生にとってとても貴重であったと振り返る日が来るのだと信じています。

「人間万事塞翁が馬」という故事成語を知っていますか。人生における幸不幸は予測しがたい。幸せが不幸に、不幸が幸せにいつ転じるかわからない。安易に喜んだり悲しんだりするべきではないというたとえです。悪い時は、必ず良いことがある一歩手前。逆に良い時は用心する。何か悪いことがあるかもしれない。そんな風に一喜一憂しないということがとても大切だと教えていただきました。皆さんにとって、良いことも悪いことも今後あると思いますが、人生、どう転ぶかなんて分かりません。辛いときこそ笑顔で、「今」を全力で生きなければと思います。

ところで、4月の始業式で皆さんに伝えたかったことがあります。それはイチローさんの言葉です。『昨年末、僕は学生野球の指導に必要な研修を受けてきました。そこで感じたことがあります。それは、指導する側よりも指導される側の方が、力が強くなっているということです。これも時代だからと言う一言で片付けてよいのでしょうか。僕は大変憂慮しています。上司や先輩から教わることには大切なことがたくさんあります。それを謙虚な気持ちで受け止めてほしい。厳しく指導することが難しい時代に、じゃあ誰が教育するのか。それは自分自身です。先が見通せない時代で誰かが正解を持っているわけではない。だからこそ自分で自分を教育する。それが必要不可欠になっていると感じています。』これはイチローさんからトヨタ自動車（株）の新入社員の方々に贈られた言葉ですが、私たちもこのイチローさんの言葉から学ぶことが大切だと思います。私は「謙虚な気持ちをもつこと」、「自らに厳しく、自ら学ぶこと」の重要性を改めて感じています。できるか、できないかは、「能力」の差よりも、「努力の差」、「素直になれるかの差」だと思います。特に「素直になれるか」の差は、高校生の今はたいしたことがないように思えるかもしれませんが、社会に出てからは大きな差になって表れてしまうと私は感じています。素直になって取り組んだことがない人は、頑張れない。頑張れないから、信用されない。魅力がない。結果、後悔することになります。あの時もっと頑張って努力しておけばよかったと皆さんに後悔する人生を歩んでほしくありません。今、できることは、「自分は今、何をすべきか」をよく考え、素直になって実践し、自らに打ち克つ努力を続けることです。

「体いっぱい生きる」お互いに頑張りましょう。